

国連ポンペイ通信 No. 1

ミクロネシア振興協会のご会員の皆様初めまして。国際連合事務局の阿部です。2022年5月よりミクロネシア連邦ポンペイ島コロニア市に設置された国際連合ミクロネシア多国間事務所（United Nations Multi-Country Office for Micronesia）にエコノミストとして勤務しています。

事務所は市内中心部カセレーリエ通りに面する商業ビルの二・三階に置かれています（下の写真1をご覧ください）。ミクロネシア振興協会には2023年8月から参加しております。今回川嶋会長からのお勧めでこの小文を「ミクロネシア・カセレーリエ」に寄稿することになりました。

写真1： 国際連合ミクロネシア多国間事務所



出典・註：2023年12月頃著者撮影。一階はUNICEFミクロネシア事務所でPUC（Pohnpei Utilities Corporation）の正面道路向いに位置します。

当事務所は、ミクロネシア連邦を含むミクロネシア地域五か国（パラオ、マーシャル諸島、ナウル、キリバス）で活動している20を超える国連機関の円滑な運営のため、米国・日本・オーストラリアなどのドナー国や、アジア開発銀行および世界銀行などの国連外組織、並びに市民団体・民間企業と協力して、調整・支援・評価を行っています。

通常、このような国連事務所は一国に一箇所設けられますが、以前はフィジーの国連太平洋事務所がメラネシア地域とともに担当していました。

これは、この地域が長期間米国もしくは英国の支配下であり、独立後も直接支援を受けていたことや、各国の狭小性、遠隔性のため、国際外交や世界市場の中での重要度が低かったためです。

当事務所はミクロネシア諸国の国連での活動の活発化や、地域政治経済のなかでの重要性の高まりとともに（特に米国と中国の太平洋でのライバル関係の増大とともに）、2021年10月ようやく設立されました。

これは国連のミクロネシア各国へのサポートを量・質ともに向上させていくことが目標です。現在ポンペイ島には国際・現地を含め約50名の国連職員が働いていますが、4-5年後には短期雇いを含め200名以上に増加する見込みでおります。

また、コロニア市の南にあるポンペイ植物園（戦前のポナペ農業試験場分場「ブンジョウ」）の隣に国連諸機関の事務所を置く「UN One House」を建設する計画です（写真2・3）（ただし建築資金の目途はまだ立っておりませんが）。

写真2： 戦前のポナペ農業試験場分場



出典： 仲 誠一（2015）日本人の足跡を訪ねて：F S M ポンペイ州 コロニアタウン 散策ツアー、2015年版

写真3： 現在のポンペイ植物園



出典： 国際連合ミクロネシア多国間事務所（2023）

ミクロネシアでの生活は今まで経験したことが無いものです。これまで30年近く発展途上国・最貧国で暮らし、赴任前にはアジア太平洋州のことはよく理解していると思っておりましたが、孤島（文字通りですね）での生活や仕事は予想していなかったことの連続です（それとともに小生の故郷である福島の田舎文化にととても似たところもあることにも気づきました）。

これまで国連での仕事が長かったのですが、留学や民間企業での海外経験も踏まえ、今後も定期的にこの「国連ポンペイ通信」を寄稿できればと思っております。ミクロネシア連邦を中心に、小職の私見とはなりますが、硬軟織り混ぜた情報を発信してまいります。

国際連合ミクロネシア多国間事務所

エコノミスト

阿部 真人